

第 20 回 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム幹事会 議事概要

■日時：令和 6 年 5 月 15 日（水）17:00～18:00@Teams

■参加者：

＜幹事団体＞

別紙「参加団体一覧」参照（赤字は当日の変更箇所）

＜事務局＞

大西 連	内閣府孤独・孤立対策推進室	参与
江浪 武志	内閣府孤独・孤立対策推進室	室長
松木 秀彰	内閣府孤独・孤立対策推進室	参事官
土屋 皓嗣	内閣府孤独・孤立対策推進室	企画官
堀江 典宏	内閣府孤独・孤立対策推進室	企画官
松本 憲司	内閣府孤独・孤立対策推進室	参事官補佐
青野 恵里子	内閣府孤独・孤立対策推進室	参事官補佐
荒川 裕美	内閣府孤独・孤立対策推進室	参事官補佐
岡村 布美	内閣府孤独・孤立対策推進室	参事官補佐
山村 吾郎	内閣府孤独・孤立対策推進室	主査
松川 侑生	内閣府孤独・孤立対策推進室	主査付
玉田 瞳	内閣府孤独・孤立対策推進室	主査付
神門 優行	内閣府孤独・孤立対策推進室	主査付
久芳 猛志	内閣府孤独・孤立対策推進室	

前田 絵麻 一般社団法人 RCF

野田坂 秀陽 一般社団法人 RCF

（以下、敬称略）

■意見交換要旨

1. 開会

内閣府 4 月異動者紹介（久芳、神門）。

2. 報告事項

（1）分科会等

□分科会 1（5/14 分科会）

大空氏）四角囲み資料 1 内の、（資料 1）に沿って分科会 1 の開催概要を、（資料 2）に沿って【令和 5 年度におけるサポーター養成講座の試行実施に関するご報告】をご説明。

令和 5 年度におけるサポーター養成講座の試行実施について。認定サポーター要請事業をベンチマークにして検討が進められてきた。昨年度には、有識者検討会が実施され、多様な意

見が収集されました。その中で、「つながりサポーター」の方向性が確認され、具体的な福祉支援ではなく、日常的なサポート主体としての役割を果たすことが強調された。

試行実施の詳細について。専門学校や自治体、日本生命などで試行が行われ、アンケート結果からいくつかの課題が指摘された。これを受けて、本格実施に向けた議論が始まっている。具体的には、啓発グッズの配布や上級者講座の設置などが提案された。また、「つながりサポーター」要請講座を受講した後の取り組みや情報交換の場が必要であるとの意見も出た。

講座の立て付けや効果測定について。事務局機能の設置場所やその必要性、効果測定のための KPI 設定が重要な課題として挙げられた。

今後の展望として、子供版テストの検討が進められる予定。教育機関での実施を想定し、次年度以降の課題として取り組むことが求められた。

分科会 1 では、多くの参加者から意見が収集された。事務局機能や講師の育成が必要であるとの意見が出された。また、既存の取り組みと「つながりサポーター」の違いを明確にすることが重要であるとの指摘もあった。自治体からは子供向けテキストの作成や教育現場への浸透が提案された。さらに、要請講座を実施する際に、各民間団体の特性を生かすために、完全なルールやマニュアルで縛らず、柔軟性を持たせることが広く浸透させる上で重要であると意見された。分科会 1 や検討会だけでなく、多くの方々が参加する意見交換の場が評価されており、今後もこのような機会を設けることが重要であるとされた。

□分科会 3(4/19 担当幹事会、5 月の相談実施について)

北村氏) 資料 2 に沿ってご説明。

(2) その他

□孤独・孤立対策推進本部、孤独・孤立対策推進会議の開催について

堀江氏) 資料 3 に沿って孤独・孤立対策の推進体制について、ご説明。

4 月 19 日に開催された第 1 回孤独・孤立対策推進本部会議では、岸田総理を本部長とする法に基づいた初の会議が行われた。岸田総理から、関係大臣に対して、既存施策の運用改善や新規施策の検討を指示しさらなる推進を図ること、加藤大臣に対しては、有識者や関係者の意見を丁寧に聞きながら新たな重点計画案をまとめ、次回の本部会議で報告するように指示があった。

5 月 15 日の第 1 回孤独・孤立対策推進会議では、加藤大臣が議長を務め、重点計画の作成に向けた議論を行った。地方公共団体や地域協議会、関係者の意見を聞くためにヒアリングが行われた。具体的には、埼玉県や千葉県市原市の取り組みが紹介され、NPO センターの吉田事務局長からは水平的連携の重要性についての説明があった。また、ヒアリングで得た示唆を重点計画案に反映させるための指示が大臣から出され、現在も検討と調整が進められている。

□孤独・孤立対策強化月間について

松木氏) 資料 4 に沿ってご説明。現在実施中の孤独・孤立対策強化について、4 月 23 日の閣議後記者会見で加藤大臣が発表した内容に基づいて活動内容を報告する。広報活動とし

て、ポスターの作成と配布が行われており、厚生労働省のハローワークや JR、地下鉄の駅などで掲示されている。また、月間特設ウェブページを設け、47 都道府県での取り組みを可視化している。メタバース空間での活動として、メタバースを活用したプラットフォームで、様々なイベントを実施している。電話やメールでの相談も行われている。群馬県では、プラットフォームを設置し、記念シンポジウムを開催している。メタバースでのイベントは、春夏秋冬のエリアに分かれており、各エリアで地域ごとの取り組みや相談エリア、特設ステージなどが設けられている。

特設ステージでは、クラシックライブの中継を行い、先日高齢者向けの居場所活動の場でのコンサートの配信を行った。セミナーエリアでは、つながりサポーターのオンライン講座や NPO 向けのファンドレイジング講座などを実施。5 月 9 日には大空様と大西参与によるつながりサポーターが実施され、110 名以上の参加があった。5 月 23 日にはライトリングの石井さんと大西参与によるイベントが予定されている。

大空氏) ぶらっとば～すの件について、前回のサポーター講座のイベントに多くの参加があった一方で、批判的な意見も多く寄せられていることを紹介する。有名な社会学者、古市さんの週刊誌のコラムでは、「世界中どこを探してもこんなに孤独なプラットフォームはない」といった批判があった。特に、解説時間が役所時間に合わせており、ユーザー同士のコミュニケーションが制限されていることについての批判があった。オンラインでの取り組みに制限をつけることで批判が多くなるのはやむを得ないと考えているが、今後の本格実施に向けて検討が必要な課題であると指摘する。

松木氏) 様々な意見が出ることは想定したうえで実験的な取組と位置づけている。いただいた意見について、これから検討していきたい。

□地方版孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業、NPO 等の取組モデル事業、孤独・孤立対策担い手育成支援事業について

土屋氏) 資料 5 に沿ってご説明。

孤独・孤立対策の取り組み主体として地方自治体と NPO を支援する予算事業について。地方自治体、市町村、都道府県、NPO、中間支援組織を対象とした支援を行っており、今年度も引き続き手当てをしている。市町村向け事業について、4 月 18 日に公募を締め切り、現在 14 の市町村から応募が来ている。7 月からの事業開始を目指している。孤独・孤立対策推進交付金について、都道府県および NPO 中間支援組織向けに支援が行われている。都道府県分の公募は 6 月 10 日まで行われ、8 月上旬に決定予定。中間支援組織向けの公募は 5 月中に締め切り、6 月中に決定予定。NPO 支援事業について、昨年度と同様にモデル調査を行い、NTT データが受注者として決定。今後、説明会や公募が行われる予定。

吉田氏) 昨年度の地方版 PF の事業報告書は公開済みと承知しているが、NPO モデル調査事業、中間支援組織向けの調査事業の事業報告書は全て公開されているか確認したい。次に、今年度の予算について、市町村向けの地方版官民連携プラットフォームはモデル調査で、都道府県向けは交付金で分かれているという理解で正しいか。また、昨日の推進会議で報告さ

れた内容と昨年度のシンポジウムでの報告を踏まえ、各自治体の取り組みは非常に興味深く、多様性が見られる。特に地方版プラットフォームの多様性は、孤独・孤立対策の特徴とも言えるのではないかなと思う。しかし、多様なままだと政策推進が難しくなる可能性がある。そこで、モデル事業の特徴を分類することが必要ではないかなと考える。例えば、重層的な支援と絡めた取り組みや、災害対策と連携した取り組みなど、特徴を分類することで政策の推進がスムーズになるのではないかなと思う。

土屋氏）昨年度の地方版 PF 報告書は全て公開されており、NPO と中間支援組織の報告書も間もなく公開される予定。予算についての確認もその通りである。モデル事業の特徴分類についても今後の報告書で検討する予定である。

3. 議題

(1) 分科会規程の改定について

松本氏）資料 6 に沿ってご説明。分科会規定の改定について、内閣官房から内閣府に変わる際に修正をしておくべきだった箇所を修正する。また、第 5 条について、活動報告は幹事会に適宜報告する形に改めたい。幹事会と事務局間で合意ができれば、改正を施行する。

反対意見なし

(2) 令和 6 年度シンポジウムについて

松木氏）資料 7 に沿ってご説明。シンポジウムの開催について、資料に参考として年 3 回の実施の場合の仮スケジュール感や前回いただいたご意見等を加えている。年 3 回の実施であればスケジュールが厳しく、今日あたりテーマを決めていく必要がある。また、テーマについても意見を頂きたい。

米山氏）若者の支援、特に社会的擁護の制度が終わった後の孤独・孤立に焦点を当てたテーマを提案する。

大空氏）オンライン開催も良いが、対面の機会が少ないため、対面での開催も検討してほしい。

井澤氏）年間 3 回の開催はスケジュール的に厳しい部分があり、2 回の開催でも次回幹事会の決定等ではスケジュール的に厳しくなってくる。そのため、テーマをご提案いただいた幹事団体で検討チームを構成し、幹事会を待たずに打合せ等で進めることを提案する。

大空氏、大西氏、奥田氏、奥山氏）賛成。

以上

第20回 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム 幹事会（オンライン）参加団体

団体名	出席者 (⇒代理出席又は欠席)	幹事会 へ一任
全国社会福祉協議会	村木 厚子（むらき・あつこ）会長 ⇒代理出席 高橋良太 地域福祉部長	○
全国社会福祉法人経営者協議会	磯 彰格（いそ・あきただ）会長 ⇒代理出席 宮内良樹 法人振興部副部長	—
認定 NPO 法人日本NPOセンター	吉田 建治（よしだ・けんじ）事務局長	—
NPO 法人新公益連盟	白井 智子（しらい・ともこ）代表理事 ⇒代理出席 井澤徹 孤独・孤立担当 堀内美穂 事務局次長	—
NPO 法人あなたのいばしょ (SNS相談コンソーシアム)	大空 幸星（おおぞら・こうき）理事長	—
NPO 法人自殺対策支援センターライフリンク	清水 康之（しみず・やすゆき）代表 ⇒代理出席 根岸親 副代表	—
一般社団法人 日本いのちの電話連盟	堀井 茂男（ほりい・しげお）理事長 ⇒代理出席 小西慶直 孤独・孤立相談プラットフォーム事務担当	—
一般社団法人 社会的包摂サポートセンター (よりそいホットライン)	遠藤 智子（えんどう・ともこ）事務局長 ⇒代理出席 北村 貴美子コーディネーター	—
一般社団法人 生活困窮者自立支援全国ネットワーク	奥田 知志（おくだ・ともし）共同代表	—
認定 NPO 法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ	湯浅 誠（ゆあさ・まこと）理事長 ⇒代理出席 西川紗祐未 孤独・孤立対策担当	—
一般社団法人 全国フードバンク推進協議会	米山 広明（よねやま・ひろあき）代表理事	—
認定 NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ (シングルマザーサポート団体全国協議会)	赤石 千衣子（あかいし・ちえこ）理事長 ⇒欠席	—
NPO 法人全国女性シェルターネット	北仲 千里（きたなか・ちさと）共同代表	—

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会	奥山 千鶴子（おくやま・ちづこ）理事長	—
---------------------	---------------------	---